

窟沢B遺跡発掘調査現地説明会

令和4年10月22日（土）13:00～

福島市文化振興課

公益財団法人福島市振興公社

調査の概要

窟沢B遺跡は、「一般国道13号福島西道路（II期）事業」に伴って令和元年度に西道路開発範囲内で2度の分布調査が実施され、平石字窟沢、字八郎、字町畑地内において土器が表面採集されたことから、令和2年に試掘調査が実施されました。調査の結果、奈良・平安時代の堅穴建物跡や土坑、出土遺物は土師器片や須恵器片が確認されたことから当区域は窟沢B遺跡の名称で新規遺跡として登録されました。

また、本遺跡南側に隣接する町畑・吉治下遺跡について、福島市史別巻V「福島の町と村I」（昭和57年1982）によれば古代の官道（東山道）は松川町閑谷から山峯道を通り平石吉治宮の西に出て吉治下より山を降り山発田・上石・下石を経て永井川に向かうとされ、『信達二郡村誌』には「今ノ米沢街道ノ東ニ在リト云フ 吉治下 町畠等ハ昔ノ奥州街道ノ地ナリ」とあり、遺跡周辺に街道が通っていた可能性が推察されます。

調査成果

令和3年度には窟沢B遺跡北西部（A・B区）の調査が行われました。調査の結果、堅穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、ピットが見つかり堅穴建物跡の時期は出土遺物から奈良時代頃のものと思われます。出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器等が出土しました。



●B区2号堅穴建物跡から出土した土師器の蓋です。表裏を平滑にし黒色処理が施されています。

● A区で見つかった
掘立柱建物跡



● B区で見つかった奈良時代の堅穴建物跡。
（上）は堅穴建物跡掘り込み作業。（下）はカマド跡



● F区で見つかった奈良時代の堅穴建物跡。
（上）は堅穴建物跡全景写真。（下）はカマド付

近の遺物出土状況。



窟沢B遺跡空中写真

